臺灣新報
（第二版）（朝治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十九年三月二十五日（七曜日）臺灣日日新報 第一万五千八百三十號 (一)

敵陣の一部奪取

トロキナの敵を猛攻中

敵牛永久要塞構築

皇軍蹴然起つて猛攻撃

【東京發至急報】大本營陸軍發表（昭和十九年三月二十四日十五時三十分）ブーゲンビル島に於ける我が部隊はトロキナ附近の堅固なる半永久陣地に據れる約一個師團半の敵に對して、三月上旬攻撃を開始し、激戰の後敵陣地の一部を奪取、爾後敵の熾烈なる砲爆撃を冒し攻撃續行中なり

インパールへ三十哩に迫る

【リスボン二十三日發同盟】ニューデリー發當局によれば英印軍アジア軍司令官は二日英印軍がインパール東北三十哩に迫ったと發表し、又既に日本軍二師團を殲滅したと傳へられ、攻略目標インパールへ早くも三十哩に迫つてゐると傳へられる

ティディムから八十哩進撃

【リスボン二十三日發同盟】中部緬甸國境を突破、マンプール王國

豫期通り進撃

ビルマ方面軍當局談

【ビルマ○○地區二十三日發同盟】ビルマ方面當局發表

ビルマ戰線を通じ敵は依然として雨季攻勢の態勢を堅持し、特に北部ビルマ戰線方面に於ては敵は豫期通り攻勢を續行しつつあるが、我が軍は豫期の如く敵の攻勢を挫折せしめ、敵の損害は我が軍の數倍に達し

社說

皇軍印度國境を突破す

昭和十九年三月此の日を期も無く初頭を自ら戒してアイ作戦を開下に於ける皇軍将兵の一部が、その西南部に於て、敵英國の内政にされてゐた印度軍を開下に於ける三軍隊に加ふるの挙あたとされたが、いま部隊長の報告の概況を作戦中の将兵、ドンザン地地點に於ける敵軍と戦闘に於ける敵軍を撃破するとともに、印度國境を突破しつつ、遂にその國境を突破して印度國内に進入した時、そと同時に、感激せられる。

云ふ迄もなくこの印度作戦は、印度そのものに於ても敵米英人の印度からんがためである。又、印度人が手に於ても、英國に於ては、英國に於ては印度人のために戦ふ戦である。従つて、正しきもの必ず勝つ、之は世界ある絶對不動の信念である。日本と印度人の結束は、若し一個の信念をもつて、この信念の下に、英軍の結束の強靭な精神の敵を撃破しつつ、印度國内に進入した時、そと同時に、感激せられる。

◇

當て日露戦争の時、皇軍が遼に露に戦争を挑るや、當時の印度人に「東亜民族起てり」の印象と光明とを與へ、その勝報を報にバンデ・マタム（母國万歳）を高唱せしめた。そして、この歌が印度人の印度を救け、印度人が手

(第三種郵便物認可)　昭和十九年三月二十五日　(土曜日)　臺灣日日新報　第一万五千八百三十號　(三)

見よ學徒烈々の闘魂

本望だ"たとへ死んでも海鷲へ

徴募官も泣くこの赤誠

より渡航に乘込つ00まで續いて、特に職人として入營させるべき心を鬼にして泣き伏す父母の姿、たゞ感激の涙に咽ぶ家族、ひたすら祭壇に向つて感謝の祈りを捧げる遺族、これら感激の坩堝と化した臺北州下の合格者

學窓から決戰場へ

臺北州下男子中等學校生徒の志願兵

臺北州下男子中等學校生徒の志願兵の合格者は、一般青年の志願者と同じく、一般青年の志願者と同じく、一般青年の志願者と同じく

土木事業は三分一を停止
鮮かな大整理斷行
南方基地としての決戰措置

【東京特電廿四日發】政府は戰局の現段階に鑑み、土木事業の大整理斷行を決定、二十四日の閣議に於て左の如き決定を見た、

一、土木事業は戰爭遂行に緊要なるもの、民生安定に必要なるもの、及び戰災復舊に關するもの以外は之を停止又は縮小す

二、前項の停止又は縮小に依り生ずる勞務、資材、資金は之を左の諸事業に振向け、其の急速なる完成を期す

（イ）航空機生産擴充に關する事業

（ロ）船舶の建造及修理に關する事業

（ハ）食糧增産に關する事業

（ニ）南方開發に關する事業

（ホ）其の他戰爭遂行上緊要なる事業

三、前二項の實施に關し必要なる事項は別に之を定む

【東京特電廿四日發】政府は二十四日の閣議に於て、戰局の現段階に鑑み、土木事業の大整理斷行を決定、二十五日の官報を以て發表する筈であるが、其の概要は次の如くである

一、土木事業は戰爭遂行に緊要なるもの、民生安定に必要なるもの、及び戰災復舊に關するもの以外は之を停止又は縮小す

二、前項の停止又は縮小に依り生ずる勞務、資材、資金は之を左の諸事業に振向け、其の急速なる完成を期す

（イ）航空機生産擴充に關する事業

（ロ）船舶の建造及修理に關する事業

（ハ）食糧增産に關する事業

（ニ）南方開發に關する事業

（ホ）其の他戰爭遂行上緊要なる事業

三、前二項の實施に關し必要なる事項は別に之を定む

【東京特電廿四日發】政府は